

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4372400624
法人名	特定非営利活動法人 長寿会
事業所名	グループホーム ひまわり21長洲
訪問調査日	平成 21 年 1 月 26 日
評価確定日	平成 21 年 3 月 12 日
評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21 年 3 月 2 日

【評価実施概要】

事業所番号	4372400624		
法人名	特定非営利活動法人 長寿会		
事業所名	グループホーム ひまわり21長洲		
所在地 (電話番号)	熊本県玉名郡長洲町折崎633-5 (電話) 0968-78-8880		
評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市南熊本3-13-12 205号		
訪問調査日	平成21年1月26日	評価確定日	平成21年3月12日

【情報提供票より】(21年1月12日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成12年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 6 人, 非常勤 10 人, 常勤換算 4.55 人	

(2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	鉄骨造り	
	2 階建ての	1 階 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	28,500 円	その他の経費(月額)	光熱水費110円/日 個室電気料40~160円/日
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(60,000円)	有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食	200 円	昼食 300 円
	夕食	300 円	おやつ 50 円
	または1日当たり 850 円		

(4) 利用者の概要(1月12日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	3 名	要介護2	7 名		
要介護3	5 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87.6 歳	最低	78 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	淡河黒田医院 ふじさわ脳神経外科クリニック 田宮二郎内科 なかむら歯科医院
---------	---------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

NPO長寿会の中の一つ“ひまわり21長洲”は理事長の地域の中に泣く人(介護難民)を出してはならないという熱い思いを理念に託し、「笑顔と自信を大切に毎日を送っていただきたい」と全職員が共通認識で取組み、入居者の時々に変化する“今”を大切に入居者本位の穏やかな安心した生活を支援している。ゆっくりと穏やかな生活ぶりや温かな表情からも職員のケアの確かさが表出され、日々の身体機能維持や認知症進行防止の取組みが在宅復帰に繋がったことも質の高いケアであることが窺われる。地域の中での生活は充実し、運営推進会議も委員の不安対策に応急手当の実技訓練を取り入れる等創意工夫して取り組んでいる。認知症ケア推進に意欲的であり、今後も職員の持つ力量を発揮し認知症ケアの啓発に大いに期待できる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>昨年度の指摘事項の記録物の置き場所については即時変更し、室温調整について湿度計のチェックやぬれタオルを使用したり職員の細やかな気配りにより心地良い居室とする等具体的な改善を図っている。評価結果を勉強会の資料として活用し、家族や来訪者のため玄関に掲示している。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価・外部評価を自己ケアの振り返り、ケア確認の一環と捉え、今年度の自己評価は全職員に項目を振り分け、全員で意見を出し合い管理者がまとめあげている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>2ヶ月毎と定例化している運営推進会議は、委員に議事内容を事前案内し、多方面からの参加を得、活動報告や入居者の状況を説明し、意見交換を行っている。意見交換の中で、救急車到着までの不安等が聞かれたことを受け、会議の中で応急手当の実技指導を行ったり、「タオル体操」の体験や、中庭での運動会を運営推進会議とする等創意工夫した会議となっている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族の訪問時暮らしぶりや健康状態を報告し家族とのコミュニケーションを図り信頼関係の構築に努めている。遠方の家族には毎月手紙で現状を報告したり、今年1月よりホーム便り“ひまわり21長洲”を創刊している。家族会が問題提起の場・家族の交流の場となっておりホームへ直接申し出の他、家族会の世話人を通じ苦情の申し立てを受入れる体制が確立し、重要事項にホーム内外の相談・苦情窓口を明記し、円滑迅速に処理を行う管理体制と手順も記載している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>子ども会開催のどんどこやに参加する等地域行事に積極的に参加し交流を図り、自治会への加入や苦役への参加等地域の一人として活動している。地域住民が野菜のおすそ分けに訪れ入居者と一緒には話をされる姿等もあり、地域住民との関係も構築していることが窺われる。中学生の職場体験の受入れや「子ども110番の家」として貢献している。法人の広報誌を地域に配布しており、ホーム独自に創刊された“ホーム便り”も地域に配布し、情報を発信していただきたい。</p>

(部分は重点項目です)

2. 評価結果(詳細)

外部	自己		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理事長の地域福祉にかける思いが込められた法人理念の4項目や運営方針の中に地域住民又はその自発的な活動等との連携や協力を行う等の地域との交流を謳い、笑顔と自信を大切にし、住み慣れた地域で最後まで安心して自分らしく生活できることを基本としている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	入職時理念を説明し、言葉で覚えることからスタートしている。理念の掲示による意識付けや管理者は機会あるごとに日々のケアの中から事例を通じて指導を行っている。入居者の生命あって、楽しく過ごしてもらいたいと健康管理や住環境の整備に努め、職員個々も年間目標をたて、年2回個人評価をする等真摯に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	子ども会開催のどんどやに参加する等地域行事に積極的に参加し交流を図り、自治会への加入や苦役への参加等地域の一員として活動している。地域住民が野菜のおすそ分けに訪れ入居者と一緒に話をされる姿等もあり、地域住民との関係も構築していることが窺われる。中学生の職場体験の受入れや「子ども110番の家」として貢献している。法人の広報誌を地域に配布されており、ホーム独自に創刊されたホーム便りも合わせて地域に配布し、情報を発信していただきたい。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					

ひまわり21長洲

外部	自己		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価・外部評価を自己ケアの振り返り、ケア確認の一環と捉えている。今年度の自己評価は理事長より一任されている所長のもと、全職員に項目を振り分け、全員で意見を出し合い管理者がまとめあげている。昨年度の指摘事項の記録物の置き場所については即時変更を行い、心地よい室温調整については湿度計のチェックやぬれタオルを使用したり職員の細やかな気配りにより居心地よい居室とする等具体的な改善が図られている。評価結果を勉強会の資料としたり、ご家族や来訪者のため玄関に掲示している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎と定例化している運営推進会議は、委員に議事内容を事前案内し、多方面からの参加を得、活動報告や入居者の状況を説明し、意見交換を行っている。意見交換の中で、救急車到着までの不安等が聞かれたことを受け、会議の中で応急手当の実技指導を行ったり、ホームで採り入れている「タオル体操」を入居者とともに体験してもらっている。「タオル体操」後には委員から簡単な手指運動等の紹介や指導を受ける等サービス向上に活かしている。	○	職員には議事内容は申送り簿を活用し周知を図っており、更に家族に共通認識や協力体制の強化のためにも議事録の配布を検討いただきたい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	認定調査時や外部評価結果持参時等情報交換を行ったり、法人代表者が町の会議に参加している。認知症ケア推進にも積極的に取り組み、行政との連携を更に深める意向である。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問時暮らしぶりや健康状態を報告し家族とのコミュニケーションを図り、信頼関係の構築に努めている。遠方の家族には毎月手紙で現状を報告したり、心身の状況変化に随時電話連絡を行い、不安解消や共有化を図っている。法人の機関紙の発行の他、今年1月よりホーム便り“ひまわり21長洲”を創刊しており、多くの写真により日常生活を発信している。金銭管理については、家族との話合いで小額を持つ入居者の他はホームでの立替払いしている。法人の機関紙には新人職員紹介を掲載している。		

ひまわり21長洲

外部	自己		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時に意見や要望を聞く機会と捉え、苦情は寄せられていないが要望はその都度家族と解決に向け話し合い、ホーム運営に具体的に活かしている。家族会が問題提起の場・家族の交流の場となっており、年1回行われる家族総会には多数の家族が参加されている。ホームへ直接申し出の他、家族会の世話人を通じ苦情の申し立てや行政の窓口も説明している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	この1年職員の自己都合により離職があり、管理者が引継ぎ新人職員へ指導を行い、入居者への報告や紹介を行うことで不安解消に努めている。管理者は馴染みでの職員による支援の重要性を認識しており、職員とのコミュニケーションに努め、希望休を採用したり、勤務時間帯を調節する等働きやすい環境作りに努力している。また、職員同士の意思疎通も良く、明るく自信を持ってケアに当たっている。		

5. 人材の育成と支援

10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員はレベルアップに意欲的であり、ホーム内の勉強会や職員の力量や興味等を鑑み外部研修へ参加している。又月1回業務改善会議と称する法人全体会議で伝達講習等を行い情報の共有化を図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加入し、意見交換や事例検討等を通じた交流やネットワークにより質の向上に取り組んでいる。また、今年の3月には連絡協議会の玉名支部主催“のど自慢大会”では、実行委員として企画・参画し、2回目も開催されており、玉名支部の連携した取り組みにより盛会であったことがニュースとして放映されている。また、荒尾・長洲地区の“ほのぼの老人懇談会”の3ヶ月毎の研修会や見学会に参加し、サービスの向上に取り組んでいる。		

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応

外部	自己		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に遊び感覚で足を運んで雰囲気を感じてもらい、安心感をもって入居となるよう支援している。本人・家族から生活歴等の情報把握に努め、職員の声かけや寄り添い等の関わりや入居者同士の会話、家族の協力を得て徐々に馴染めるように取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活の中で、掃除や洗濯、食後の下膳等一緒に取り組み、喜怒哀楽の表出の場を作り、餅つき等入居者の得意分野を發揮してもらっている。職員は介護する側・介護される側に立たず、ねぎらいの言葉をかけたり、励ましあう等支えあいながら生活を共にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人・家族から長年の習慣や好きな話や現在の好み等を収集し、希望や意向を直接申し出られる入居者や、意思の表出や発語が困難な入居者には表情やしぐさ等から推察し、本人本位になるよう職員間で情報の共有化に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族更にキーパーソン以外からも情報を収集し、本人・家族の意向や職員の気づきを反映した介護計画を立案している。援助内容から理念も具現化した内容となっていることが窺われる。介護計画担当者は誰が見てもケア方法が分かるプランに努力しており、カードックスに添付し記録時確認するよう努めている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的には半年毎に評価・考察し、家族に意向を聞き見直しを行う他生活日誌を通し職員の気づきや様子の変化等職員の共有化が徹底され、予防的観点からのプランを朱書きで追加したり、入退院時のプラン見直し等現状に即したプランを作成している。		

外部	自己	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)		(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者の希望に応じた買物や外泊支援、住み慣れたところをドライブし気分転換を図ったり、日々の健康管理や観察に努め、認知症の進行によっては有料老人ホームへの変更(環境変化)により、自分らしさを取り戻された事例もある。ボランティアの受入れや中学生の職場体験、「子ども110番」等ハード・ソフト両面から多機能性を発揮している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への継続的な治療や家族に協力医を説明し定期的に往診に来ていただけるのならと納得したうえでかかりつけ医を変更される家族もいる。月2回往診により健康管理が行われ、円滑・適切な医療等を受けられるよう受診前に情報提供を行い、主治医・家族・ホーム側の連携を図っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	日常的な健康管理に努め、緊急時対応可能な協力医の確保もあり、重度化や終末期に対し家族の意向を聞き取りしている。ターミナルケアの指針や同意書の準備もしており、最期までという家族の思いがあれば支援する意向である。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援え					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	法人の接遇に対する姿勢を掲示し職員の意識向上に努め、職員は休憩時間を使い記録しており、入居者の目に触れないようにしている。入居者への自然な対応や敬愛を持った明るい声かけ、自尊心への配慮等高い意識で取り組んでいる。家族の意向により面会簿は玄関に設置している。また、守秘義務について入職時に誓約書を受入れている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるものの、入居者の“今”を大切に、一人ひとりのペースやライフスタイルに合わせ、その人らしく生活することを支援している。		

外部	自己	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)		(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者に食べたいものを聞き取り献立を立て、買物に同行してもらい野菜を選んでもらったり、食材の皮むき等主体的に取り組んでいる。昼食は1・2階のユニットで主采・副采を分担して調理し、夕食は調理担当者を採用している。クリスマス会や誕生会等行事には職員も一緒に楽しんでいるが、日常は入居者の見守りや介助にあたり、ローテーションで休憩をとり、その時間を食事時間としている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴前のバイタルチェックにより入浴を見極め、入居者の希望に応じ、概ね一日おきに希望の時間帯に支援している。夏場はシャワー浴にしたり、夜間の入浴や季節行事にゆず湯や菖蒲湯等も採り入れている。家族が温泉に連れて行かれる等の協力も得ている		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の長年の習慣や好み等把握し、出番や得意分野を發揮してもらおうよう支援している。プランターの花植え・掃除や洗濯物干し・たたみ等一緒に取り組み、食後の下膳は皆さんが自然発生的に行われている。塗り絵や歌好きの入居者はカラオケを楽しまれたり、ビーチバレー等レクリエーションも多様に用意し、毎日タオル体操により身体機能維持に努めたり、認知症進行防止に計算問題等を採り入れ、自信を持ちながら意欲的な生活を支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気や個々の体調にあわせ、散歩や買物・ドライブ、地域や法人内の行事等への外出を支援している。また、ホームの庭に出て体を動かしたり、広い廊下を歩くこともリハビリの一環となっている。同法人のデイサービスでの行事や運動会、季節に応じた遠出(コスモス見学等)も充実している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は施錠の弊害を認識し、日中は門扉や玄関は開錠している。各ユニットの入り口にはセンサーを設置しているが、寄り添いのケアや所在確認の徹底により自由な行動を支援している。		

ひまわり21長洲

外部	自己	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)		(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の自主防災訓練で、避難経路の確認等を実践的に行っている。緊急連絡網の整備、熱・煙探知機、自動通報システムを整備し、職員は日々火元確認の徹底に努めている。運営推進会議等を通じて地域住民に協力要請をしており、消防署立会いのもと夜間想定の方非難訓練等を計画していく意向である。	○	入居者も一緒にした消防署立会いのもと夜間訓練等の重要性を認識されており、近隣住民や近くに住まれる家族に訓練日の周知を図り、災害訓練を実施されることを期待したい。更にホームの中庭や会議室等地域に貢献することも視野に入れ検討されることを期待したい。
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分摂取量の記録や月1回の体重測定、浮腫対策に毎日体重測定を行ったり、排便・排尿回数や量等を日々観察し詳細に記録に残し、顔色や表情により栄養摂取状況や健康管理に努めている。又、状況によっては主治医と連携を図っている。月間チェック表も個々の支援により個別チェック項目も作成しており、個別支援であることが表出されている。個々の体調によりキザミ・お粥等細やかな取組みである。		
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	道路に面した2階建てのホームは玄関前は開放され、バリアフリー化が徹底し、澁みない空気が漂った共有空間は広々と清潔感が保たれている。季節の草花を活けたり、観葉植物やぬいぐるみを飾ったりと親しみのある温かい環境作りが行われ、季節柄加湿器を配置する等居心地良く過ごせるよう工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各ユニットともに和・洋の居室が用意され、クロゼットの備え付け以外は全て家族に協力依頼し使い慣れた物が持ち込まれている。居室を自宅での生活線上にあると認識し、本人の生活スタイルの継続として和室に布団での生活や仏壇・位牌を持ち込み毎日お仏飯を上げ月命日にはお坊さんと呼んで供養される入居者、また居室で本を読んだりテレビを見たりと自分の住処であることが反映されている。掃除の行届いた居室であり、換気の入換え等職員の細やかな心配りが窺われる。		

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	ひまわり21長洲
(ユニット名)	1Fユニット
所在地 (県・市町村名)	熊本県玉名郡長洲町633-5
記入者名 (管理者)	夏目 幸子
記入日	平成 21 年 1 月 12 日

取り組んでいきたい内容
(すでに取り組んでいることも含む)

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

職員同士常に向上心を持ち、日々「ご入居者に出来る事」等を考え、試行錯誤しながらケアしている。時には失敗もあるが失敗を糧とし、ゆっくりと穏やかに生活していただけるように全職員前向きに頑張っている。事業所独自のタオル体操を毎日行うことで、生き活きとしたご入居者の表情を見ることが出来る。1Fは身体的ケアを必要する方が多いが、過剰介護や業務的にならないように、さりげなくお手伝いするように心がけている。誕生会・敬老会・夏祭りなどの季節の行事を開催しており、手作り感あふれるアットホームな雰囲気の中で楽しんでいただいている。

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	ひまわり21 長洲
(ユニット名)	2F ユニット
所在地 (県・市町村名)	熊本県玉名郡長洲町633-5
記入者名 (管理者)	井上 佐由美
記入日	平成 21 年 1 月 12 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者自身の尊厳と権利が守られながら、住み慣れた地域で安心して自分らしく生活できる事を基本とした、法人理念が確立されている。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	入職時に法人理念の説明を行うと共に、まずは書いて覚える事から始めている。言葉として覚えた後各々が具体例を提示し、それから日々のケアの中で実践できるように努めている。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	事務所内に理念を提示し、家族や来訪者の目に触れるようにしている。ご家族に対しては契約時等に、地域の方々には運営推進会議等で説明し理解していただけるよう努めている。	
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	職員一同誰に対しても気持ちの良い挨拶を心がけ、実践すると共に、近隣の理容店等を積極的に利用する事で、職員・利用者共に交流を図っている。又ホームでの行事等に参加していただく事で、顔なじみの関係ができ、野菜等の差し入れも頻繁にいただいている。	
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会にも加入しており、地域での行事、地域活動にも入居者と共に可能な限り参加し交流を図っている。又、機関紙を近隣宅や関係機関等に配布し、事業所の活動内容を知ってもらうように努めている。	○ 区長さんや、民生委員さん等の協力を得ながら、今以上にボランティアの慰問なども受け入れたいと思っている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地元中学生の職場体験学習の受け入れや、地域行事に参加する事により、認知症を地域の方々に幅広く理解していただけるように努めている。又、「子ども110番の家」受諾や介護保険外の積極的に受けるように努めている。	○	地域の行事に参加したり、運営推進会議の委員さんを介在して、事務所の存在をアピールすると共に、些細な事でも気軽に相談していただけるように地域の駆け込み寺的存在でありたいと思う。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価・外部評価を実施する事で、職員は自己ケアの振り返りや確認ができ、又改善すべき点については職員間で検討しケアの質の向上へ向け努力している。外部評価の結果は事業所内に提示し、職員及びご家族・来訪者等多くの方々に目を通していただけるようにしている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所での活動内容や現状を報告すると共に、認知症についての勉強会又は、入居者との関わりの中で互いに意見を出し合い、出た意見については検討しケアに活かしている。地域との接点も増えつつある。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所と市町村担当者との関係作りについては概ね出来ていると思えるが、今以上に入居者が認知症の方々が安心して暮らせる町を作り上げていく為には、認知症についての啓発を積極的に行うと共に町(行政)と行き来する機会を増やし、更に連携を深めていかなければならないと思う。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在、権利救護に関する制度については多くの職員が勉強不足であり、理解できていないと思われる。	○	今後勉強会に取り入れていき、十分な理解が出来るように努力する必要がある。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体・言葉・薬等の拘束などは決してあってはならないと全職員が理解しており、又精神的な拘束についても継続的に研修を行うことで、入居者の尊厳と権利を損なわない言動を心がけケアしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、契約の内容・重要事項説明書の内容及び、ホームでの生活・想定されるリスクについてなど出来るだけ詳しく説明を行い理解・納得していただいた上で同意を得ている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者からの意見・不満等はそのままの言葉で、又自信の意見を十分な言葉で表現できない方に対しては、表情や行動からその方の思いを推察し、個人記録に残すようにしており、その都度ケアへ反映させている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者の状態・変化等については、面会時又急を要する場合には、電話で随時報告を行っている。又写真の掲示機関紙による報告も行っている。	○ ご家族へ詳しい報告をする事は大切な事であるが、ご家族が聞きたい内容を聞きたいタイミングで報告するという伝え方にも配慮する必要があると思われる。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族とは常に対話を持つように心がけ実践している。ご家族からの意見・要望は記録に残し、職員間で情報を共有しケアや運営に反映している。又、直接職員に言えないような場合は家族世話人や行政の窓口を利用していただくように説明も行っている。	○ ご家族との信頼関係を構築する事で、何でも言い易い環境を作ると共に、ご家族の意見には迅速に対応する必要があると思われる。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員と常日頃より十分な会話を持つ事で、職員の意見や気持ちを汲み取れるよう努めると共に、互いが納得しあえる職場環境が整っている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	入居者の状態に合わせた職員の配置・時間帯の調整に努めている。季節によっても違いをもたせている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	出来る限り馴染みの関係を継続し、入居者に不安なく支援を受けていただけるよう努めているが、やむえない異動や離職に当たってはきちんと報告・紹介を行うことで、受けるダメージが少しでも少なくなるように配慮している。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	段階に応じた外部研修への参加、事務所内でのケアカンファ・勉強会の開催・参加により全職員が前向きに学ぼうとする姿勢を維持できる環境作りが出来ている。又、法人全体でも月1回勉強会を開催し外部研修などの伝達講習うい行うことで効率よく全職員が学べる機会が与えられている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同地域(郡市町)内のグループホームで作る連絡協議会での活動に積極的に参加する事で同業者との交流を図ると共に情報の共有化、地域のネットワーク作りにも力を入れる。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員間においても互いに愛情を持って、何でも言い合える関係が出来ておりその都度問題解決も図れており精神的ストレスを溜めないような環境作りが出来ていると思える。働きやすい職場であるとの自負がある。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	管理者等から随時職員の情報収集を行い、職員個々人に合った方法・タイミングで適宜指導・及び働きかけが行なわれている。非常に厳しくもあるが、深い愛情を感じられる厳しさである。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご本人の不安、寂しさ混乱等を少しでも軽減できるよう、又ホームでの生活に一日でも早く馴染んで頂けるよう深くかかわり、愛情を惜しみなく注ぐように努めている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族と十分に対話する事を心がけ対話の中からお家族の悩み、要望、思いなどを汲み取る努力をしている。入居間もない時期には短い間隔にてご本人様の状態報告を行い、安心感を得ていただける様努めている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に必要とされている事を可能な限り把握し、見極めてアドバイスを行うと共にご本人・ご家族の意見・要望も取り入れながらご本人にとってよりよいサービスの提供が出来るようにグループホームのみならず、法人内の他のサービスについても十分に説明を行うように努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前にも可能な限りご本人を含めてホームへ遊び感覚で足を運んで頂けるように促しを行っている。入居後にはご本人の生活暦を把握しながらそのままの生活が継続でき、安心した生活が送れるよう家族と協力しながら馴染みのものを持ち込んだり、十分な情報収集を行いながら利用者本位のケアが出来るように努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活における作業(掃除、洗濯、台所など)を共に行うことにより、個々の不安、悩みそして喜びを表出できるような雰囲気に関わり、話し合うことが出来、励ましあい、支えあう関係が出来ていると思う。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	気軽にホームへ足を運んでいただけるような雰囲気作りに努めている。面会時には本人の状態報告を行ったり、家族からの意見や要望を伺ったり、また、行事には家族にも参加していただけるよう促し、通院等にも協力いただくなどしながら家族と共に本人の生活を支えている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族とコミュニケーションを図り、信頼関係を深められるように努力している。日常生活における本人の情報をこまめに提供し、また、家族の思いを傾聴することで良い関係作りが出来ていると思える。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の行きつけの美容室へ家族の協力のもと行って頂いたり、希望があればその場所へのドライブ、訪問など馴染みの場所、人との関係を継続できるように努めている。また、家族以外の面会も歓迎している。可能な限り希望をかなえながら、自由に生活していただけるよう支援している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	レクリエーション活動、作業時、利用者同士の関係を把握した上でより良い関係を保ちながら関わり合える様配慮している。もしもトラブル等起こった場合にもさりげなく場の雰囲気を和ませ利用者同士の関係の修復に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	機関紙の送付、行事参加への呼びかけなど行い継続的な関わりを保っている。また、入院等により退居された場合には、お見舞いを兼ね様子伺いに出かけている。多くの場合、退院後も当ホームへの再入居を希望されるなど関係の継続性見られている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族とコミュニケーションを図ることで個々の思い・希望・意向を把握することに努めている。困難な方に対しては表情や態度も含めアセスメントを十分に行い、職員間で検討しながら本人らしい生活が送れるような支援を行っている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のフェイスシートにての生活歴、また、家族面会時の情報収集等により把握に努めると共に、これまでの暮らしを出来るだけ継続し、その人らしさが失われないような支援を行っている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一日の過ごし方は様々ですが、身体機能を把握した上で、自分で出来ることは自分でしていただくように心がけている。日常生活における作業においても意欲を高められるような声かけや関わりを持ち支援している。健康面では日々のバイタルチェック、精神面では表情、言動にてアセスメントし把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画作成者を中心とし、各担当がアセスメントを行い、本人及び家族の意向をプランの中に十分反映されるよう取り組んでいる。また必要な関係者の情報や職員の意見も取り入れチームとして検討しながら利用者本位のプランになるよう努めている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6ヶ月に1回、中間評価・考察を行い、プランの継続性、変更、終了など検討を行っている。急な変化が生じた場合はその都度短期プランを作成したり、プランの見直しを行いケアを実施している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活日誌に個別に日々の様子、気づきなど職員各自が記録している。また、出勤時必ず目を通して勤務に入ることを徹底しており情報の共有化に努めている。生活日誌を通して工夫すべきことは随時行うようにし、プランの見直し反映している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	施設内だけにとどまらず、ドライブや買物、また外泊支援なども行っている。また、身体機能や精神状態等に応じて法人内の有料ホームへの変更などを検討することもある。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	必要に応じて各機関の協力を得ている。運営推進会議開催時には利用者との交流等も行っており、委員の方よりホームの様子を会報誌に載せ地域へ発信していただいている。ボランティアの受け入れも積極的に行っている。	○	警察(交番)、消防署への積極的な働きかけにより、当ホームをもっと理解していただけるよう努力したい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	許容範囲外の支援が必要な場合、主治医、ケアマネジャー等との意見交換の上、他サービス機関を利用することもある。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括センターのケアマネジャーより入居相談等を受け入れることもあるが、協働ということにおいてはまだ関係が薄いと思われる	○	運営推進会議のメンバーにも入っていただきアドバイス、意見など情報交換ができるようになれば良いと思っている。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族了解の上、主治医受診、又は往診を行っている。事前に情報提供をFAX等にて行うことで、円滑により適切な医療を受けられていると思える。また、医療面だけではなく生活面、精神面についての情報の共有化も図ると共に、アドバイス等も受けている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の方の誇りやプライバシー配慮した言葉遣い対応をするよう心掛け、職員間では徹底されている。また、個人情報もスタッフ以外目に届かないようにしている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者が出来るだけ自分で選択できるような場面を多く持つよう、職員は利用者の状態、好み等を把握した上で状況に応じたさりげない働きかけを行う努力している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	常に利用者を尊重し、利用者のペースに合わせることを基本としている。業務を優先させるのではなく、一人一人の「今」を大切に、支援している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	家族の協力がある方は、本人の望む店を利用されている。他の方についても、地域の理容店を利用されており、理容店へ行くことを楽しみにされている方も多し。外出時等は、本人主体で洋服を選んだり化粧をしたりすることで、いつもとは違う雰囲気を感じられている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の下ごしらえや片付け等出来るだけ利用者の方に参加して頂いている。食席についても利用者の状態や関係に配慮し、ゆっくりと食事ができるよう支援している。	○出来ることを繰り返して頂くことで、利用者の方に役割を持って生活に張りが出るような援助を今後も続けていきたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	体調を考慮した上で、嗜好品を楽しんで頂いている。	○もっとそれぞれの好みを把握し、日常の中の楽しみを増やしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	チェック表を利用しながら一人一人の排泄パターンに合わせ、声かけ、介助を行っている。また、誘導時には可能な限り周りに分からないようさりげない声かけ等を行っている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望を出来る限り配慮し、楽しんで入浴して頂けるよう努めている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	リネンを清潔に保つ等、環境整備に努めると共に、心地よい入眠を促す為に夕食後は職員の声のトーン、テレビの音量を下げたり、照明をやや暗くする等の配慮をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除や台所仕事、洗濯物干し・たたみ等、利用者にあった役割を持って頂くことで、自信を持ちながら生活して頂けるよう支援している。	○	今以上に役割や楽しみを増やし、日々の生活に行き甲斐を持って頂けるような支援をしていきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と本人の力量に応じて支援をしている。また、買物の希望があれば随時対応している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日々の買物、行事(法人、地域)への参加、散歩、ドライブ等、本人の希望、体調に合わせてながら利用者の気分転換が図れるよう、出来るだけ外出の機会を持つようにしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	季節の行事等での外出を行っている。また、家族の協力により外出される方もいる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者からの要望があれば、その都度対応している。電話の取次ぎは随時行っている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	来訪時間に制限はなく、いつでも気持ちよく訪問できるような雰囲気作りと環境整備を行っている。面会時は状況に応じフロアで過ごされたり、居室でゆっくり過ごされたりしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の安全を保障する為にいろいろ工夫をしながら身体拘束をしないケアを実践するよう努めている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	安全の為、センサー設置を行い、危険のない限り自由に行動できるように援助している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員間で十分に連携をとりながら昼間は利用者の所在や動きを常時確認しながら夜間は最低2時間ごとの巡視にて安全の確保に努めている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	自身で管理できる物に関しては利用者にお問い合わせする等、それぞれに応じた物品の保管・管理を行っている。	○	本人の能力・状態に応じ、家族との話し合いのもと、はさみや爪切り、髭剃り等を持たれている方もいるが、定期的に所在を確認し危険防止に努めている。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハットも積極的に提出し、定期的なカンファレンスを行い、事故防止の為の知識を学び、職員間での情報の共有を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	応急手当普及員の指導のもと、応急手当や初期対応の訓練を行い、緊急時への心構えは持っているが、実際の場面においてはどうか？という不安もある。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災訓練は実施しているものの、緊急連絡網訓練や地震や水害時の訓練は不徹底である。火災については事業所内より火災を出さないように日頃から防災についての意識づけは行っている。近所への働きかけは日頃より行っている。	○	消防署との合同訓練の必要性は非常に高いと思える。特に夜間時の避難や地震時の対応訓練等を消防署と定期的に行えるように計画していきたいと思う。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居時にも起こりうるリスクについては説明し、同意を得ているが、その後はひとり一人の身体・精神状態に応じて考えられるリスクについては、その都度家族に説明し、家族と共に、場合によってはDr等の意見も交えながら対応策を話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェック・顔色・食欲・排泄状況など日々の状態を記録に残し、普段の状態の十分な把握をすると共に、体調の変化、異変についても職員間で情報交換を行い共有化を図っており、早めの対応に結びついている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容が確認できるように処方箋は個人ファイルにはさんでおり、医師の指示のもと確実な服薬の支援を行っている。本人の能力により方法は異なるが見守り・介助を含め吐き出し、こぼし、誤薬等のないよう注意をしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	牛乳を主体とした水分補給や体操、腹部マッサージ、散歩などを積極的に行うと共に、排便チェック、おなかの張り、体調の良し悪しを確認するようにしている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	本人の能力、口腔状態に応じ声かけ、介助により歯磨き、うがい、義歯の洗浄等を支援している。口腔内を清潔にすることで誤嚥等を生じさせないよう努めている。	○	必要があれば本人または家族の希望を踏まえながら、訪問歯科をも含めた歯科受診をより積極的に検討する必要がある。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食毎の摂取量(水分摂取も含む)に加え、定期的な体重測定、排便回数(量)、排尿回数(量)及び顔色・表情などにより利用者のおおよその栄養摂取状況や健康状態の把握に努めている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザについては入居者、職員共に概ね全員予防接種を実施している。感染症に対してはうがい・手洗い・ハイターの希釈液での清掃など現在出来る範囲での予防、対応はしている。	○	室内に観葉植物、水槽を配置したり、濡れタオル等をかいたりするなどして湿度の調節を行い、更に予防に努めていく必要がある。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所での作業前は石鹸で丁寧に手を洗い、また調理用具も使用前には熱湯消毒し、ふきん・タオルなどもこまめにハイター消毒を行っている。食材については賞味期限を守り使い残しのないよう気をつけている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	道路からグループホームの表札、玄関も良く見え、門扉も開放されており、また駐車場も広くゆったりとした感じが安心感を与えていると思われる。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広い空間を有効に使いながらも安心感が得られ落ち着きくつろぎのある空間作りのため季節の草花や観葉植物、またホッと心を和ませるように親しみのあるぬいぐるみを飾ったりしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日当たりの良い廊下や中庭にもベンチを置いたり、畳コーナーにも座椅子や座布団を置くなどしてひとりのんびりと過ごしたり気の合う仲間同士で会話を楽しめるような居場所の工夫をしている。	○	ベンチや椅子の配置についても固定的ではなく、利用者の混乱を招かないように配慮しながら状況に応じて臨機応変に変更する等の工夫もしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の協力も得て入居者に馴染みのあるベッドやタンス、ご家族の写真、ぬいぐるみなどを配置することにより、その人らしい居心地の良い環境の継続性に配慮した居室作りが出来ている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	フロアに設置している温湿度計を利用しながら換気及び冷暖房の調整を行っている。また、各居室には自然換気口の設置もあり体調に優しい配慮を行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	館内の要所要所に手すりを設置し、また流し台や浴槽のまたぎの高さ、洗面台やトイレの鏡の傾斜設置等は利用者の使い勝手が良いような工夫をし、可能な限り安全且つ自立した生活が送れるよう配慮している。また、利用者に対して注意を呼びかけるような声かけ、促しも随時行っている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室の表札やトイレの表示を行うことで利用者の混乱やトラブルの回避に努めている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	エレベーターを利用することで階下へ、また玄関や中庭へ続く通路は階段のほかスロープもあり車椅子利用の方も無理なく外へ出て行ける。ベランダの柵を利用して職員と協力しながら布団干しなども行っている。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
		<input type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

当グループホームでは『サービスの質』にこだわりを持ち、理念に基づきケアを展開している。常に『自分だったら』『自分の親だったら』という思いのもと、利用者の権利や尊厳を最も大切にし、利用者主体のケアの実現を目標とし努力している。そのために職員はカンファレンスや勉強会に積極的に参加することはもちろん、与えられる情報・知識・技術だけではなく常に自己研鑽に努めている。経験等に違いはあるものの、人（利用者・家族・職員等）に対する思いは深く、愛情に溢れた事業所であると思う。利用者が自分らしく、穏やかな生活を送っていただくことが出来るように職員は常に意識を高く持ち、チームとして意思統一を図り前向きに頑張っている。

利用者は日々の穏やかな生活のほかに、季節に応じた行事を出来るだけ多く実施することで、季節感を感じていただいたり、昔を懐かしまれたり、家族や近所の方、顔見知りの方々と楽しみを共有されている。他事業所と合同での敬老会や文化祭、クリスマス会、もちつき大会など、地域行事の『どんどや』への参加や小学校の運動会の見物など、ホーム内でのお花見や夕涼み会、誕生会などである。常に利用者の安全を保障しながら職員も共に楽しめるような雰囲気作りに努めている。